

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。今回の議会では、20人の議員が一般質問を行いました。掲載した内容は各議員本人が要約したものです。なお、全ての質問と回答は市議会ホームページの会議録で閲覧できます。（2月下旬掲載予定）

児童虐待防止を目指して

新井光男 議員

問 児童福祉法の改正を受けて、専門窓口業務を拡充すべきでは。

答 川越児童相談所の地域対応強化パイロット事業に参加し、専門性の向上に努めている。

問 専門職員を重点的に配分してはどうか。

答 子育ての不安への軽減を図り、児童虐待へのリスクを早期に発見する支援の構築を図るため、児童福祉事業全体を考慮した人員配置を検討する。

問 役所の枠を超えて地域が一丸となつて対処できるような、子育てしやすいまちづくりを実現すべきでは。



答 児童福祉法の改正で市町村の体制強化が規定され、子育て世代包括支援センターが法制化された。当該センターの開設に向けて取り組んでいる。子育て世代包括支援センターを核に地域連携を深め、ネグレクトを含めた要支援児童等の早期発見に努める。

元福岡地域の雨水対策

大築 守 議員

問 平成27年に設置した雨水排水ポンプのメンテナンスは。

答 ポンプの整備を年1回、貯留ピット内の清掃を年3回、動作確認を年5回実施。雨の後もごみを除去するためのスクリーンの清掃をし、急な降雨に対応できるように備えている。

生産緑地の指定解除

問 2022年から始まる生産緑地の指定解除、今後の人口動態をどのように考えるか。

答 市内に397筆の指定箇所があり、全て住居系の用途地域内にある。また、空き家が増加することが想定されるので、良好な生活環境を築けるように取り組む。

旧福岡高校の跡地の利活用

問 今後の計画は。

答 運動公園の改修・整備内容を見て、有効活用を検討する。

問 旧新河岸川の利用は。

答 旧福岡高校を公園化する中で遊歩道を整備したい。富士見市との行政界が明確になり、旧河川の管理区分が明確になった後に検討していく。

運動公園を結ぶ歩行者用の橋の設置計画は。

答 橋の設置は便利であり、今まで以上に有効な活用が可能なのは理解している。県との協議も必要で、引き続き研究していく。

長時間にわたる水害対応に支援を

島田典朗 議員

問 水害対応に従事する消防団の活動に対する支援体制は。

答 近隣の集会所やトイレを開放しているが、水位の上昇により使用できないことがあり、地域において協力場所を探している。また、隣接する他市小学校についても借用できるようにした。

乳児用液体ミルクの普及を目指して

問 液体ミルクは、粉ミルクと異なり、ほ乳瓶の消毒を要せず、お湯も水も不要であることから、被災地で活躍した実績があるが、日本では製造販売されていない。まずは、防災備品に導入しては。

軽量素材の採用で、より安全な天井へ

問 落下防止のために布素材を使用した膜天井など、軽量素材の天井に切り替えていく考えは。

答 今後の改修工事等の中で、軽量材等の採用を含め、天井の落下防止対策を検討していきたい。



市ホームページの最大限の活用を

渡辺 大 議員

問 ホームページは市民への告知に劇的な効果を発揮する可能性のあるツールであり、その潜在能力を最大限発揮させるべき。第一弾として、企業広告の効果検証を行っている。

答 ホームページの重要性については、同様の認識を持っている。アクセス解析、企業へのヒアリングなどにより企業広告の広告効果を検証する。

防災隠しへの対策は

問 市発注の公共工事での防災隠しへの対策は。

答 担当課から周知を図る。

福祉タクシー券の郵送

問 視覚障がい者等が福祉タクシー券を取りに直接出向くのは負担となる。郵送対応は可能か。

答 事情によっては郵送を検討する。

おしゃれなテナントの誘致を

問 調整池の多目的活用（ボール遊び、バーベキュー等への開放）、福岡中央公園への市のブランドを高めるおしゃれなテナントの誘致について、その後の取り組みは。

答 先進地への調査などを行っており、引き続き研究する。

一般質問

問 生活習慣病の早期発見と早期治療への対応を図るため、将来を担う子どもたちの健康管理の一環として、健康診断時の血液検査を導入する考えは。

答 健康診断時の血液検査は、生活習慣病の低年齢化に対応するためには有益な検査だと認識している。

実施方法や費用等の課題もあるので、今後総合的な視点で検討していきたい。



おしゃれなカフェのある公園

問 生活習慣病の早期発見と早期治療への対応を図るため、将来を担う子どもたちの健康管理の一環として、健康診断時の血液検査を導入する考えは。

答 健康診断時の血液検査は、生活習慣病の低年齢化に対応するためには有益な検査だと認識している。

実施方法や費用等の課題もあるので、今後総合的な視点で検討していきたい。

児童・生徒の健康管理に血液検査の導入を



勝瀬小の防災訓練

問 苗間みほの地区から富士見市の勝瀬小学校に100人を超える児童が通学しており、勝瀬小学校区の防災訓練等にみほの町会も参加をするといった地域交流が行われている。

この交流についての市の考えと今後の支援策は。

答 市の境を越えた近隣自治体との交流や連携は、防災や防犯等の地域課題の解決に必要である。

どのような支援ができるか今後検討していきたい。

行政界を越えた地域交流

西 和彦 議員

問 民生委員制度は、平成29年に制度創設100周年を迎える。制度への理解がさらに広がり、民生委員への協力支援体制が深まるよう積極的な広報活動を。

答 民生委員・児童委員が地域福祉の中核として力を十分に発揮できるよう、活動の紹介など積極的に啓発・広報に努めていく。

民生委員制度創設100周年

堀口修一 議員

問 民生委員制度は、平成29年に制度創設100周年を迎える。制度への理解がさらに広がり、民生委員への協力支援体制が深まるよう積極的な広報活動を。

答 民生委員・児童委員が地域福祉の中核として力を十分に発揮できるよう、活動の紹介など積極的に啓発・広報に努めていく。

民生委員制度創設100周年

堀口修一 議員

問 民生委員制度は、平成29年に制度創設100周年を迎える。制度への理解がさらに広がり、民生委員への協力支援体制が深まるよう積極的な広報活動を。

答 民生委員・児童委員が地域福祉の中核として力を十分に発揮できるよう、活動の紹介など積極的に啓発・広報に努めていく。



空き家対策の推進を

問 実態調査で得られた情報を地域に還元すべきでは。

答 法的な制限があり困難であるが、限定的に還元していく。

問 空き家の活用に当たってNPOや事業者との連携は。

答 埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部との協議を進めている。

問 ふるさと納税の返礼品として、空き家管理代行サービスを。

答 検討に当たり、シルバー人材センターと協議していく。